

まほろば【校長室だより】

[文責]

校長 江口 尋信

学校がすっきりしました

先週の土曜日、「おやじの会」の皆さんが本校で草刈りをしてくださいました。

5月とはいえ、25℃を越える夏日になる日もあることから、雑草が茂り、梅雨が終わる頃には、子どもたちの背丈ほどになる場所も出てきます。今のうちに雑草を刈っておきたいのですが、なかなか手が回らずに困っていました。太宰府小学校は歴史がある学校で校舎も古いのですが、古くてもきれいな学校でありたいと思っています。そのような中、「おやじの会」の皆さんが快く草刈りを引き受けてくださいました。本校の「おやじの会」は、太宰府小学校の保護者の方だけでなく、太宰府中学校の保護者の方、卒業生の保護者の方等、様々な立場の方がいらっしゃいます。皆さん、本当にありがとうございました。おかげで学校がさっぱりしてきれいになりました。



写真ではうまく伝えられないのですが、当日は約25名の方が来てくださいました。細かいところまできれいにさせていただいています。

読書活動について

先週、児童会の図書委員さんから「校長先生のお薦めの本を書いてください。」とカードを渡されました。毎年同じような依頼が来ますが、わたしは小・中学生の頃ほとんど本を読んでいません。唯一に残っている本が「十五少年漂流記」です。この本の影響を受け、自転車で筑後川を下り有明海まで行ったり、自転車で耳納山脈を縦断したり、様々な無茶をしたように思います。(子どもたちに無茶はお薦めできませんが…) 高校生の頃は部活に明け暮れましたが、「竜馬がゆく」「翔ぶが如く」をはじめ司馬遼太郎氏の小説にはまり、本格的な読書を始めるようになりました。今は1週間に1冊を目標に小説や教育書、啓発書など、幅広く本を読んでいます。

小中学生の頃は、体を動かして遊ぶことに夢中で、本を手取るきっかけが全くありませんでした。小中学生のみずみずしい感性をもっているうちに、もう少し本を手取ればよかったなと後悔しています。読書には、豊かな心を育み、知識を広げ増やすという効果があります。動画やゲームに多くの時間を費やしている「今」だからこそ、子どもたちが本を手取る機会をつくっていきたいと考えています。本校では、目標冊数(低学年100冊、中学年80冊、高学年70冊)をめざし「多読」に取り組んでいます。この活動が、子どもたちが本を読むきっかけになれば幸いです。